vol.43

病院新時代

リハビリ重視の総合的な診療と臨床研究で患者を支える専門病院

神経難病に特化した専門病院として開院して40年。
「すべては患者さんのために」という理念のもと、患者の生活を支え
臨床研究でさらなる貢献をめざすべく、リニューアルを遂げた。

さまざまな設備が充実した4階のリハビリテーション室で施術を行う

医療法人北祐会
北祐会神経内科病院
（札幌市西区）

パーキンソン病を中心に多発性硬化症や筋萎縮性側索硬化症（ALS）などの神経難病を専門とする北祐会神経内科病院。北海道内では大学病院にも神経内科の診療科や講座がなかった1982年、先代の濱田毅医師が北海道大学の医師らと尽力し、神経難病に特化した病院として開院した。このたび北海道における脳神経内科のさらなる発展をめざし、建て替え工事を行い、2022年4月に北海道脳神経内科病院と病院名も新たにグランドオープンを迎える。新病院は職員や患者の要望も汲み取り、使いやすく、明るい開放的な空間に生まれ変わった。

「あきらめない診療」をモットーに、薬物治療とリハビリテーション、生活環境整備など多面的なサポートを続ける。特に神経難病を専門とする、総勢50人を超えるセラピストによるオーダーメイド型のリハビリテーションは、HAL®医療用の活用や、脳機能訓練と有酸素運動を両立するコグニバイクなどの最新機器を取り入れ、日常生活動作訓練のプログラムも充実。「iPS細胞等、新規治療への期待も大きいですが、最も大事なのは適切な診断と薬物治療、日常生活を支えるリハビリです。患者さんが楽しくリハビリを継続し、難病でも自分らしく生活できるようチームで支援しています」と濱田晋輔理事長。

11年には、一般財団法人北海道神経難病研究センターを設立し、臨床研究を中心に脳神経内科の発展に貢献してきた。いまだに神経難病の治療法は確立されていないが、地域の拠点病院と脳神経内科領域の症例検討や研究会を行うなど、地道に研さんを重ねている。

濱田理事長は、「当院を含め、医療だけで全患者さんを支えるのは限界があります。将来的には、支援が必要な方が切り離される社会ではなく、神経難病の患者さんを中心に家族、診療にかかわる人々が安心して支え合うシステムが構築できればと考えています」と展望する。

撮影＝宮澤修一（Photo Works FREAK）

1

2

3

4

5

6

7

1 自宅に近い環境で調理や掃除などの動作を訓練できるADL室　2 玄関脇に設けた外来患者専用のリハビリテーション室。入院患者と分けたのは感染対策に加え、日常生活自立度が高い外来患者に即したリハビリテーションを実施するため　3 時間を見つけてはミーティングを行って情報共有するセラピスト　4 ワンフロアで言語聴覚、理学療法、作業療法が可能なリハビリテーションセンター　5 車いすでもストレスのない通路幅を確保した外来スペース　6 広々とした通路が設けられたスタッフステーション。快適で安全性も確保　7「一番の宝はスタッフ。チーム力を結集し、患者さんを元気にしたい」と濱田晋輔理事長

北祐会神経内科病院の新たな視点

- ◉職員と患者の声を反映した開放的な空間
- ◉生活場面に応じたオーダーメイドリハビリ
- ◉多職種連携で診療と研究に取り組む

医療法人北祐会
北祐会神経内科病院
〒063-0802
札幌市西区二十四軒2条2-4-30
TEL：011-631-1161
病床数：105床（障害者施設等入院基本料10:1）
URL：https://www.hokuyukai-neurological-hosp.jp/

(C) 2022 日本医療企画.